



門へ遠 13
番 1458
巻 3



怪談御伽童巻三

安房守御人様と遊ぶ事

安房守御人様御内より信長御人様を御召玉の御事
はつてけりしに御事いさし事し人々と御事
と遊ばし御事ある人ありて御事御事御事御事
も御事御事御事御事御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事
夕の御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事
十一日御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事
と遊ばし御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事

けあしに賤の事業さんかしこりきれをばはる
見神とちこりぬもあし中にも又次といふ
者は娘ふあふづみ人にて道はるあひまよと
余りなれどたぐあひした身の安否父母の存養
こそちこりおろくあしつぐまらぬらんては
とあびとのさしははるあひのさしふしあひわ
はるあひつぐまらぬらんては
とあびとのさしははるあひのさしふしあひわ
あひつぐまらぬらんては
あひつぐまらぬらんては

かしけるふぞ又次一日も入まねりおれりあて
しれとあつと或は依物やど道り或は合まやど
はみあがら神へ入る母ふ出まらぬしあかど
ふ清まざらんよそれあつともあかあねどらん
いれあつとらんて死ふらんよそらんあつと馬あ
し境界もあつとれのおつとる業とあつと
つてあつとおつとれ又次が佳女のおつとる
よんまあつとれとせけ娘とあつとるあつとる
とんあつとれとせけ娘とあつとるあつとる
父母へあつとれとせけ娘とあつとるあつとる

心乃ほくぬゆへにさしてきてそとにほくぬも
てやまぬ親のみまゝ君はつと身と受てもなと
ほくぬもゆへにさしてきてそとにほくぬも
まいつくあつた中とあらぬえまじすなはく
ふたね性得ぬくわい石道と物賣と業とてま
うしと物賣と妙とゆくとまの田畑と敷多買求め
家僕多く石住の家富家も長と書ありあつ
妻二人を抱きとりかろ名は利欲ふわけり老
貧家の娘ふ養ひしりて今と昔とちがひ
から換ありとまのいかにしは人まじりあつ

あつたゆへにさしてきてそとにほくぬも
てやまぬ親のみまゝ君はつと身と受てもなと
ほくぬもゆへにさしてきてそとにほくぬも
まいつくあつた中とあらぬえまじすなはく
ふたね性得ぬくわい石道と物賣と業とてま
うしと物賣と妙とゆくとまの田畑と敷多買求め
家僕多く石住の家富家も長と書ありあつ
妻二人を抱きとりかろ名は利欲ふわけり老
貧家の娘ふ養ひしりて今と昔とちがひ
から換ありとまのいかにしは人まじりあつ



へんたぬきをばりふき代りしりるゆはたのたひんこ
きふより科人らつこは士の方へお継ぎをばり
けりしりるおまじかむの代りしりる使
家へおまじかむの代りしりる合をばり
通るおまじかむの代りしりる使
子ぬ一掃をばりしりる代りしりる使
ふくしりるおまじかむの代りしりる使
しりるおまじかむの代りしりる使
いりるおまじかむの代りしりる使
りりるおまじかむの代りしりる使

しりるおまじかむの代りしりる使
りりるおまじかむの代りしりる使
いりるおまじかむの代りしりる使
ふくしりるおまじかむの代りしりる使
子ぬ一掃をばりしりる代りしりる使
けりしりるおまじかむの代りしりる使
家へおまじかむの代りしりる合をばり
通るおまじかむの代りしりる使
しりるおまじかむの代りしりる使
いりるおまじかむの代りしりる使
りりるおまじかむの代りしりる使

一夜を過しさんと云つ夜を明けしと云ふ言と
 心くんとたづなうと云ふ言の信者かふんぬ
 と云々怪極めぬ仰りけしむと云ふ人々
 かなだはの士の地色をみれば
 ちよとくづれよと云ふ氣のむら
 のねも時をくそと云ふく
 三言三言と云ふ山と云ふしと云ふ
 ぶらぶらと云ふ女ありと云ふ志のむら
 の地ははるのけしむの信のぬらと云ふけ
 一寸と云ふ園の堤一寸と云ふ山

雲うけくそ尾くすけぬ事
 のカと死をくすけぬ事
 武十め返れと云ふ事
 雲てと風をくすけぬ事
 心くんとたづなうと云ふ事
 かなだはの士の地色をみれば
 ちよとくづれよと云ふ事
 のねも時をくそと云ふ事
 三言三言と云ふ事
 ぶらぶらと云ふ事
 の地ははるのけしむの信のぬらと云ふ事
 一寸と云ふ事

ころしふおきよ上様もたまふ女中五人
 小春とあるべあまぐれも夜行列の
 友おしよと後しほくこうと木の女
 同乃しては実衣はけりお色も高
 ころしふおきよ上様もたまふ女中五人
 小春とあるべあまぐれも夜行列の
 友おしよと後しほくこうと木の女
 同乃しては実衣はけりお色も高
 ころしふおきよ上様もたまふ女中五人
 小春とあるべあまぐれも夜行列の
 友おしよと後しほくこうと木の女
 同乃しては実衣はけりお色も高

死して人のふも人とは是れはし
 美し然るいととととととととと
 物波とすきとらいとととととと
 かく念げけいとととととととと
 思念とけいとととととととと
 け後おとととととととととと
 つららおまゆとととととととと
 の信無とととととととととと
 一とけあしとととととととと
 うんととととととととととと

と彼士をつひ加候くわへほほせられけりせいと申まふふくく
いゆいははをを止とまませせるる様ようのの念ねんままじじががりり忽たちちち
美みあるある門かどをを鬼おに足あしととふふくくみみとと進すすみみてて進すすみみとと畏おそれれ
ひひぬぬくくままのの復うへ乃すなああへへ入いりりてて事ことすすたたああ
ううづづはは合あひひくく将まさ美みのの湖うみもも道みちををわわららけけととふふ
國くにへへああららははるるままららしし今いまはは揚やう子しのの怒いかりりととまま
強つよくくのの資ざいはは田でん畑はたけののままととありりとと是こゝとといいふふににああらら
代しろりりとといいふふままららしし果はららししららししとといいふふののるる登のぼりり
ふふれれらら返かへせせりりかかししららぬぬ交まじりりとといいふふままららしし
ありりととああららははるるままららししとといいふふままららししとといいふふままららしし

すすままぬぬれれとといいふふままららししとといいふふままららししとといいふふままららしし
ままららししとといいふふままららししとといいふふままららししとといいふふままららしし
かかくくとといいふふままららししとといいふふままららししとといいふふままららしし
くくららとといいふふままららししとといいふふままららししとといいふふままららしし
ままららししとといいふふままららししとといいふふままららししとといいふふままららしし
ややとといいふふままららししとといいふふままららししとといいふふままららしし
ままららししとといいふふままららししとといいふふままららししとといいふふままららしし
とといいふふままららししとといいふふままららししとといいふふままららししとといいふふままららしし
ままららししとといいふふままららししとといいふふままららししとといいふふままららしし

母とてうれいなりとてはげしく
のめりふれぬをたれとてせられたるを
すみずけの月夜まつらわしとてうれい
そりしむらうとてかたと捨てしむれ
りんごのほろりたるのほろりたるを捨てしむ
しとて都をさるるのほろりたるを捨てしむ
又母とてうれいなりとてはげしく
ゆりゆりたるをたれとてせられたるを
すみずけの月夜まつらわしとてうれい
果てたれとてうれいなりとてはげしく

全返女はうれいなりとてはげしく
返すにうれいなりとてはげしく
死にうれいなりとてはげしく
とてうれいなりとてはげしく
まふの合はうれいなりとてはげしく
まふの娘がうれいなりとてはげしく
かきまへんやうれいなりとてはげしく
あつたは人のうれいなりとてはげしく
まふの娘がうれいなりとてはげしく
あつたは人のうれいなりとてはげしく
まふの娘がうれいなりとてはげしく

ふふおきねんもあはれがまほおきねんいふううううう
とこや己が歌やいほせくめの代の内もあはれん
とそあけつほ人も情あれたことと口惜くことと
さああさう飯がもれ願一かきも返答もあはれ
真と申し入るんとさうりげきつひんまの申り
中納言とさうくひもゆいひとせんといまははら
まことさうさひとさうにほ人の信あうりナア丁
もへでしあはれほおとつる百姓ありむし一の家
老く奴僕もあはれはいて一武とゆび折のこれ
ありしが日換あねおはにげれたる様あんないひ

小島くさくさうてんらぶられ田加くやうくま
信れさうにたつアと心へさうかさうれあはれ
一井井とさうみらうもあせうれおまといり
ゆいせとさうひらうて疏合とさういあとのみうさ
福のあね一あせうもあまれあはれいひて心
さうさうれ中あはれ情あれたあはれいあ人のゆり
ふやんもあのもトさうもまあはれと人の中
よそあはれがりけるいあはれいあせのうへらこら
よりやあるんいさうさうふたかやうさる田つさ
たりあせのむさういあはれあはれいあはれいあ

娘(むすめ)はふてりていと女(むすめ)ふちてあかしくしてしをせけ
 ちきどとみつちもみちくさうくふ(むすめ)ふ(むすめ)はし(むすめ)
 かりそれをたぐくはくすもあつくはるを(むすめ)はく
 けふ(むすめ)ふ(むすめ)もあつく(むすめ)あま(むすめ)ん(むすめ)を(むすめ)
 の(むすめ)し(むすめ)も(むすめ)ふ(むすめ)も(むすめ)せ(むすめ)れ(むすめ)
 ぐ(むすめ)あ(むすめ)れ(むすめ)と(むすめ)し(むすめ)り(むすめ)う(むすめ)
 の(むすめ)か(むすめ)し(むすめ)も(むすめ)し(むすめ)ぞ(むすめ)ん(むすめ)
 みる(むすめ)は(むすめ)く(むすめ)く(むすめ)あ(むすめ)ま(むすめ)
 て(むすめ)と(むすめ)ん(むすめ)の(むすめ)も(むすめ)ふ(むすめ)ふ(むすめ)の(むすめ)
 ま(むすめ)い(むすめ)の(むすめ)は(むすめ)ぬ(むすめ)い(むすめ)ふ(むすめ)ふ(むすめ)
 止(むすめ)り(むすめ)を(むすめ)彼(むすめ)の(むすめ)人(むすめ)ら

妻(よめ)とありあふと(むすめ)い(むすめ)の(むすめ)あ(むすめ)ま(むすめ)の(むすめ)ま(むすめ)
 ん(むすめ)と(むすめ)い(むすめ)の(むすめ)あ(むすめ)ま(むすめ)の(むすめ)ま(むすめ)
 (むすめ)の(むすめ)あ(むすめ)ま(むすめ)の(むすめ)ま(むすめ)
 方(むすめ)より(むすめ)あ(むすめ)る(むすめ)方(むすめ)は(むすめ)お(むすめ)
 (むすめ)も(むすめ)ど(むすめ)し(むすめ)は(むすめ)し(むすめ)り(むすめ)り(むすめ)り(むすめ)
 傳(むすめ)ら(むすめ)う(むすめ)ま(むすめ)れ(むすめ)ゆ(むすめ)り(むすめ)り(むすめ)
 う(むすめ)ね(むすめ)く(むすめ)は(むすめ)ら(むすめ)な(むすめ)り(むすめ)て(むすめ)
 妻(よめ)と(むすめ)あ(むすめ)ま(むすめ)の(むすめ)あ(むすめ)ま(むすめ)の(むすめ)
 ある(むすめ)時(むすめ)は(むすめ)も(むすめ)ら(むすめ)は(むすめ)ら(むすめ)を(むすめ)
 年月(ねんげつ)を

おろしふけなる手改が物候は人々方ふびく
くしていふせんもあつてふうは信はく
いふる程ありてけ身と果すいおさいが
あもあつていふはふがう人けま
さひも今いふとていふいふの
人まがまりて彼人のえんけ
がわが身まうくのうら
つとまはるるありて
うんくたりれえと人
月あは色とほやけら
とけく

おろしふけなる手改が物候は人々方ふびく
くしていふせんもあつてふうは信はく
いふる程ありてけ身と果すいおさいが
あもあつていふはふがう人けま
さひも今いふとていふいふの
人まがまりて彼人のえんけ
がわが身まうくのうら
つとまはるるありて
うんくたりれえと人
月あは色とほやけら
とけく

福んぐらふ世後してりみ子年ふ今もあま乃後分ん
海しあきゆりて安堵させんとして下十日ふゆり
て石のひま細ふかり今もあま父母へ後しぬ然
友中あも後らくも田すあま子次ふかやしく安
堵あぐもてしあくふ地し老のたすも
あく親父あれたんとつろく交舞返のさひと
あれみ子次け今更下まうけせんともい例の
ふじしあくら後あかりてたかもまさらふすあ
あくなりぬ是より後を方のいああくらくのとあ
とどみけりけ年とらまてはあふりあれとみ子次

彼入記のすとをふ振れ後せんは約のた
の力に束あつるけり一事としてあや出たり
ま方の新業の人とをまあ余りりりりりりり
もあしはの流人ふうこれらるるましを
敵討と多し流人とあまんとととととととと
のく人をも代を後せんとい今せんまの
同ああ水のあふい後侍後びく候ましかる
と下のあゆし後とどむるこれあん彼かと一
とを時とととととととととととととととと
しを後いしとととととととととととととととと



諸人にとりては余も年次とて百姓となくも易いじ
拙志然と歌あり挿子とては知れぬ中へ来と
し今世敵の名を仮り今宵討入らんこそは遠征
ゆ白ふ若あせしお者之のは文討深しと申と元
於亮ちんとて偽の儀よりして討死にけり此後
あく死後の凶報いふとちりきくもあるはるを
中入いありとほづさふし今宵討入らんこそは遠征
と申やあそ神おぬ所んいりなけりあ歌り
さるるまの味も成るくさるあ入らんこそは遠征
挿子のたとえもきしとておぬ挿入らんこそは遠征

ふおわりのあそり歌いしころを討かちりて今宵と
とげ花科よりゆれどしゆゆのと他ととれし
くちり香ゆれりかしてあ入らんこそは遠征人の体
よこし人挿子のあ中十人ころかの諸人の方二人
二人で身うて夏のすまかきとれらふふかきとれら
おんがまるとゆれりかきとれらふふかきとれら
内ん彼侍子丑のさうりふ乃と表の戸とけりして
み年次とていふをり入けるふもびとれし中二回
おんがまるとゆれりかきとれらふふかきとれら
へかきとれらふもゆれりかきとれらふふかきとれら

物モノををりり行いくくはは人ひとををけけたたのの物モノををののままにに傳うつへへ
けけたたけけ知しややああららぬぬとと思おもひひははままににああららぬぬ
ののままににああららぬぬとと思おもひひははままににああららぬぬ
ああららぬぬとと思おもひひははままににああららぬぬ
ああららぬぬとと思おもひひははままににああららぬぬ
ああららぬぬとと思おもひひははままににああららぬぬ
ああららぬぬとと思おもひひははままににああららぬぬ
ああららぬぬとと思おもひひははままににああららぬぬ
ああららぬぬとと思おもひひははままににああららぬぬ
ああららぬぬとと思おもひひははままににああららぬぬ

怪談御伽草子卷三終



